

日本聖公会

大阪教区報



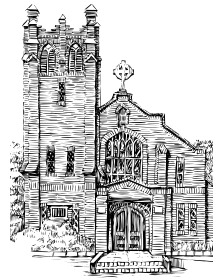
西宮聖ペテロ教会



東豊中聖ミカエル教会



聖ルカ教会



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

+++++ 第516号 2023年12月20日発行 +++++

祝クリスマス 出合いの喜び

— 逢えてよかったね

主教 アンデレ 磯 晴 久

天使は言った。「恐れるな。私はすべての民に与えられる大きな喜びを告げる。」

ルカ2・10

クリスマスおめでとございます。

去る12月3日に聖ルシヤ教会創立50周年記念聖餐式と午後、記念コンサートが行われました。そのコンサートの最後に、M姉とお仲間が、新型コロナウイルスはまだ収束していないけれど、こうしてみんなが集まり、記念礼拝と記念コンサートができたことを喜び、「逢えてよかったね」という歌を披露してくださいました。出演の皆様の美しい歌声と伴奏、そしてとても素敵なたに感動したのでご紹介いたします。

1、逢えてよかったね
少しだけ遠回りしたけれど
今はこうして逢えてよかったね私たち
傷ついて泣いた日も今は懐かしい



いつまでもいつの日も
こんな風に寄り添い
いつまでもいつの日も
歌い続けたい

2、逢えてよかったね
さりげなく過ぎてゆく時間
さえ今はいとしい
逢えてよかったね振り向けば
思い出が微笑んでそっと手を振った
いつまでもいつの日も
こんな風に寄り添い
いつまでもいつの日も
歌い続けたい
いつまでもいつの日も
こんな風に寄り添い
いつまでもいつの日も

東日本大震災被災者支援のために作られた歌だと記憶しています。私たちはアドベント（降臨節）からクリスマス（降臨日）の季節を歩んでいます。そこで私たちが思いを向ける主イエス誕生の出来事は、「出逢い」の出来事です。ルカは、「天使は羊飼いに、『恐れるな。私はすべての民に与えられる大きな喜びを告げる。』あなたが見たは、産着にくるまつて飼葉おけに寝ている乳飲み子を見つけた。」と主イエスを紹介します。羊飼いだだけではありません。マリアとヨセフ、東方の博士たち、シメオン、アンナ、家畜小屋の家畜たち、そして、私たちも赤ちゃんである主イエスと出逢います。主イエスの生涯は、初めから終わりまで出逢いの連続です。主イエスの十字架は、2つの十字架の間に立てられ、最後の息を引き取られるまで、その二人とまた、世界と出逢い、会話が続けています。「出逢いの出来事」が福音の土台にあります。十字架の下に立つ百人隊長は「本当に、この人は正しい人だった」（ルカ23・47）と言います。主イエスの死のその現場で、福音の中心を告白した

のは、この外国人、ローマの兵士でした。この兵士は、このよなことが起こるとは夢にも考えていなかったでしょう。なんと「出逢い」でしょうか。この兵士の告白は、主イエスと全世界の出逢いを指し示しています。「すべての民に与えられる喜び」に通じています。主イエスと人々の出逢いは、「地の果てまで」（使徒言行録1・8）続きます。そして、今も続いています。主イエスは、出逢いを求めて、大きな喜びを伝えるために、外に向かつて旅をされました。たとえば、徴税人ザアカイ（ルカ19・1〜10）に、ご自分から声をかけ、大きな喜びをお与えになりました。私たちも外に向かつて隣人となる旅に出るように、招かれています。デートリッヒ・ボンフェツファー牧師（1906〜1945年）は、神学生たちに「外に向かうための内的集中」の大切さを教えました。それは、主イエスと親しく歩むことです。クリスマス、赤ちゃん主イエスを心に抱き、親しく歩みましょう。そこから力を頂いて、外に向かつて歩み出しましょう。「主イエスと逢えてよかったね。」

日本聖公会大阪教区第131定期教区会 開会演説

主教 アンデレ 磯 晴久

主の平和がありますように。ガザでの Hamas とイスラエルの戦争が一時停戦し、人質や捕虜の交換、物資の搬入が行われようとしています。ウクライナをはじめ、世界に広がる争いが収束するようにお祈りします。

おはようございます。日本聖公会大阪教区第131(定期)教区会に、皆様よくご参集くださいました。議員の皆様、書記局、教区事務所、会場を提供下さり、ご準備下さった皆様、深く感謝を申し上げます。新型コロナウイルス感染症は、終息には至っておりませんが、その他インフルエンザをはじめ感染症もあり、今教区会におきましても、お互いに感染予防に気を付けながら進めて参ります。それぞれ

の教会におきましても、お互いの健康を守り合うために、創意工夫をして歩んで下さっていることに、敬意を表します。一番の心配は、体調を崩している聖職が多いということです。お祈りとお支えをよろしくお願ひします。入院療養中の原田光雄司祭、静養中の内田望司祭(実際には、教会信徒2名が逝去され、葬儀の準備等に奔走中)、体調不良のウイソン・ウォーレン司祭、囑託の務めに復帰さ

せておられます。すべての人が、神さまの愛を受け、命を得、お互いが愛し合うことを願っておられます。主イエスとのかわりが、私たちの力の源であります。主イエスとのつながりが薄くなつてはいないでしょうか。主イエスから力を得て、押し出されて、愛の業に励むのがキリスト者です。主イエスとの関わりを見直してみましよう。

昨年2022年第129(定期)教区会演説では、私は3つの柱を皆様と共有しました。

- ① 持続して安定的に礼拝を守ること。(礼拝・聖餐式・祈り)
- ② 宣教・伝道に力を入れること(居場所) 生きづらさを感じている人々が増えている。
- ③ ていねいな牧会(広がりをもった仲間作り、魂のケア)

この3つは今年度も大切にしたいと思ひます。

先ほど申しましたように、その力の源泉として、主イエスと私(神さまと私)の関わりに思いを向けたいと思ひます。私たちは新型コロナウイルス禍の下、互いの命に配慮しながら、助け合うことの大切さを学びました。しかし、世界はウクライナやガザに見られるように、対立と争いを深めています。「共に生きること」「平和の実現」がいかに難しいかを感じております。「人と人が共に生きること」の実現について、学びを深めま

しよう。多様で多彩な人々が生きる世界で、「共に生きる」ということを学び、考えて行きましよう。たとえば、外国にルーツのある方との共生 難民問題：また、自然環境の問題(信じられないような災害が起こつていきます)も大きな課題です。「人と自然の共生」についても課題と思ひます。

2、教区成立100周年

2023年、大阪教区は教区成立100周年を迎えました。この1年間を100周年として歩んで参りました。私たちは、「どこから来て、どこに立ち、どこからどこに向かうのか」ということで、「歴史」「今」「これから」をテーマに3回のセミナーを行い、12月の教区関係教役者レクイエムでは、ウイリアムス主教について学ぶ時を持ちます。

6月11日(日)には、「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である」ネヘミヤ8・10のテーマ聖句の下、プール学院メアリーズホールで記念礼拝を行うことができました。武藤謙一(いづみ)首座主教、礼拝後記念コンサートも行つてくださった大韓聖公会男性合唱団、台湾聖公会訪問団、関係諸団体代表、大阪教区聖歌隊をはじめご参集くださった皆様に、心から感謝申し上げます。

また尼崎聖ステパノ教会鈴木憲二(のり)さんを中心に編集してくだ

さつた「日本聖公会大阪教区100年の歩み」を発行できたことも感謝であります。今、ビジョンチームが中長期的な将来像を明らかにするため作業を続けています。皆様と101年に向かい、ビジョンを分かち合える日を楽しみにしております。

3、本日教区会後に、「大阪教区の今後を考える」懇談会を行います。この1年教区宣教師部では、「語り合うこと」(語り場、プネウマの会)を大切に歩んできました。本日も短い時間ですが、学びを深め、語り合うことができればと願っております。また、「伝道教区」や「主教選挙」についても、ご一緒に祈りを深めていきましよう。

磯としては、宣教・伝道の最前線は教会であり、近い将来、教会を支えていく教区となるために、教区の再編、新教区の設立は避けては通れないと考えております。(今年9月23日カトリック大阪大司教区は高松大司教区と合併し、大阪高松大司教区となりました。)

4、2023年11月10〜13日清里を会場に日本聖公会宣教協議会が開催されました。後で、参加者からの報告もございませし、後日、宣教協議会からの提言や報告書も発行されますが、磯は実行委員長でありましたので、ご報告をさせていただきます。

「人と自然」

新型コロナウイルス禍の影響もあるのですが、私たちの教会の力、愛の力、互いを大事にする力が弱くなつていっているように感じます。少子高齢化、財政難、建物の老朽化等、課題を挙げればキリがありません。どうしてもハードの面に行きませんが、一番大事な宣教・伝道する力、人とかかわる力が弱つていっているように感じております。力の源は主イエスとのつながりです。「神は、その独り子をお与えになつたほどに世を愛された。」(ヨハネ3:16)

神さまは、独り子主イエスを私たちのためにおささげになるほど、すべての人を愛し

前回2012年と同じ「いのち、尊厳、かぎりないもの」と言う大きなテーマのもと、そこに「一となりびととなるために一」という副題をつけて、すべての教区から実行委員、管区の諸委員含め約145人の参加者が集いました。宣教協議会は、この清里での協議会だけではなく、準備に入りました3年前から、アンケート、あるいはぶどうの枝分科会と称して、日本聖公会に關係するできるだけ多くの方々のお話を「聴く」ということを大切に始めて参りました。ですので、宣教協議会は、これからも続いていきます。

協議会の前半はしつかり「耳を傾ける」プログラムでありました。1日目は各教区に実り持ち寄りブースを作つて頂き、各教区の10年の歩みに耳を傾けました。リモート配信・録画によつて、3つの小さな教会に聴き、沖繩教区屋我地聖ルカ教会、九州教区対馬にある厳原聖ヨハネ教会、東北教区大館聖パウロ教会の皆さまの声を聴きました。とてもいい時間でした。秋田の大館の教会、幼稚園があるので、幼稚園のこと、子どもたちのことを大切に折つておられること、東京教区の聖マーガレット教会と繋がつておられる、教区を越えて大きな教会と小さな教会がよき交流をしておられる姿が印象的でした。(東日本大震

災被災者支援 この大小2つの教会で2000枚のお座布団を作製し、届けたそうです。)

2日目は、いのちの現場から聴くということで、5人の方からお話を伺いました。「保育園の現場から こどもたちのかかわりを通して、神さまが語つておられること」「チャプレンという立場から臨床の現場で寄り添うことから(英国での和解の経験)」「ホームレス支援活動から 貧困問題」「性の多様性・性的マイノリティ相談窓口から」「旧統一協会ははじめカルト問題・元信者の救出の現場から(カルトは呪いをかける。教会は祝福する場である。キリスト教会は健全な宗教とは何かをもっと明らかにしていく必要がある)」また、管区の諸委員会からもこの10年の歩みを聴きました。

徐々に協議会は「傾聴」から、「語り合い・参加者が互いに聴き合うこと」とへと移つていきました。グループシェアリング、バイブルシェアリング 青年による分かち合いの礼拝、宣教協働区アワーと進み、まとめに入つていきました。「仮称清里コール」を出したかったのですが、皆様からの意見・提案が大変多く、まとめきれませんでした。持ち帰りまして、話し合いを始めております。年内には提言が出されます。皆さまと分かち合いたいと願っております。

5、セーフ・チャーチについて

教会は、神さまによつて建てられた神の民の集いであり、教会に集い、心と魂の平安を求め、主イエスが望んでおられる神の国をこの世にもたらすために共に歩んでいます。本来、教会は、皆が安心して求道生活を送ることができ、安全な場所です。ところが、「安全」であるはずの教会の中で、心理的、性的、身体的な虐待などの相手の意に反する言動によつて、神にかたどつて造られた人間の尊厳が踏みじられることが、世界の聖公会の中で起きています。日本聖公会は、「アングリカン・コミュニティ諸管区すべての人、ことに子ども、青年、弱い立場の大人」の安全を高めるためのガイドライン(略称:セーフ・チャーチ・ガイドライン)を翻訳しました。日本聖公会に連なるみなさんと教会が、教区からしくあるための道を分かち合うためです。教区・教会で、関係諸施設でも共に学び、話し合つていきたく願っております。

宣教協議会におきましても、「大切にして頂きたいこと」みんなが安心して気持ちよく過ごすために」として、「話しやすい雰囲気を作る」「安心な雰囲気を作る」など文章を作成し、参加者一同で分かち合いました。今教区会でも大事にしたいと願っております。

6、チームミニストリーの実現・具体化に向けて

聖職数の減少、教区・教会の財政状況の逼迫により、またそれだけではなく、複雑な社会の中でどのように宣教・伝道活動を展開するかを考えました時、1教会1教役者の時代は終わったと考えています。具体的には、聖贖主教会、大阪聖パウロ教会、高槻聖マリヤ教会で模索しながら進めております。また差し迫った課題として、2024年3月ウィルソン司祭、2025年3月原田光雄司祭、磯主教定年退職となります。教役者間の協働、各教会間の協働、教区間の協働、更には、教会外の方々との協働も避けては通れないと考えます。

7、大倉有紀聖職候補生は、

来年3月ウィリアムス神学館を修了予定であります。4月から実習聖職候補生となり、宣教・伝道の現場に立ちます。幼子2人を育てながらの働きですので、皆様のお祈りとお支えをよろしく願ひします。

薦田久美子神学生は来年度ウィリアムス神学館3年生となります。学業はもちろん、教会実習や社会活動など積極的な経験を積み重ねています。

マクストン・エスター神学生は、宣教師のご家庭にお生まれになり、伝道ということ

に情熱を傾けておられます。英国で十分な学びと訓練を受けておられます。宣教・伝道に力を尽くす道を歩まれてはどうかと考えております。

8、202230と言う数字を御存知でしょうか。女性の意思決定機関への参加を2022年までには30パーセントを目指してと言うことで日本聖公会が取り組んでいる課題です。基本は、それぞれに与えられている賜物を生かすということです。今回も常置委員選挙・総会代議員選挙がございしますが、このことをご理解いたいて、祈りをもって投票をよろしく願ひします。

9、「みことばの礼拝」に多くの教会が取り組んで頂いております。どの教会も主日礼拝において月1回は実施くださるよう、御計画をよろしくお願い致します。また聖書協会共同訳聖書(購入計画の準備)や祈禱書改正作業に伴つて配信されます試用版の詩編や祈禱文の使用につきましても、取り組んでいきましょう。

最後に、議事進行へのご協力をよろしく願ひします。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等、油断はできません。すみやかな議事進行にご協力ください。

2023年 第131定期教区会報告

書記長 司祭 ステパノ 柳 時京

去る11月23日(木・休)午前9時、大阪教区主教座聖堂川口基督教会に第131(定期)教区会が招集された。

定刻通り、9時より開会聖

餐式が執り行われ、例年と異なり、聖餐式にて磯主教よりメッセージを賜り、祈りの大切さについて、また共にある事の大切さを分かちあった。この礼拝で献げられた献金は38300円で、カトリックの難民支援をする団体シナピスに献げられた。また常置委員会が礼拝堂後ろに献金箱を設置し、ガザ地区のために献金が呼びかけられた。集められた献金は管区事務所を通じて、エルサレム教区へと渡され、ガザ地区での人道支援のために用いられる。

礼拝後聖堂で開かれた本会議では、議員資格調査委員の韓司祭より、聖職、信徒代議員ともに点呼され、聖職議員16人中11人、信徒代議員31人中30人の出席が確認され、過半数を超えたため、教区会が成立した。

午前中は、常置委員会をはじめに、各局、各委員会の報告があり、財政局より、牧会献金の継続に関して質疑があった他、恙なく進行した。

諸団体報告を前にお昼を迎えたため、一時議事を中断し、隣の会館2、3階で3年ぶりに黙食ではなく対面・マスク無しで食事と交わりの一時を持ち、12時54分より報告を再開。報告後、議案審議に入り、1号議案「2024年度日本聖公会大阪教区一般会計予算(案)承認の件」は賛成多数で通過。2号議案「聖贖主教会が現在独自に持つ宗教法人格を、大阪教区に一元化する件」も賛成多数で可決された。

両議案審議後、常置委員選挙と、総会代議員選挙が行われた。

常置委員会選挙は4回行われ、聖職常置委員は小林司祭、千松清美司祭、義平雅夫司祭、次点に柳時京司祭。信徒常置委員は寒河江研司さん(大阪聖三一教会)、加納佳世子さん(大阪聖アンデレ

教会) 太田幸彦さん(聖ルシヤ教会)、次点に豊川雅章さん(大阪聖愛教会)が選出された。

総会代議員選挙は4回行われ、聖職代議員は千松清美司祭、古澤秀利司祭、次点に小林聡司祭、義平雅夫司祭が選出された。信徒代議員は寒河江研司さん(大阪聖三一教会)、太田幸彦さん(聖ルシヤ教会) 加納佳世子さん(大阪聖アンデレ教会)、中尾由紀子さん(高槻聖マリヤ教会)が選出された。

選挙後、今選ばれた常置委員、総会代議員が磯主教より紹介されたのち、会計検査委員として春名英夫さん(恵我之荘聖マタイ教会)と山本多津子さん(芦屋聖マルコ教会)が指名され、主の祈りと磯主教の祝祷をもって16時15分に閉会した。

なお教区会終了後、「教区の今後についての説明と語り場」が開かれ、分かち合いの時間がもたれた。



(川口基督教会牧師)

大阪教区婦人会 被献日礼拝

日時：2023年2月2日(金)10時30分～
場所：西宮聖ペテロ教会
説教者：ウイルソン ウォーレン司祭

第5回大阪教区合同埋葬式・教区墓地礼拝報告

11月4日(土)14時から第5回大阪教区合同埋葬式・教区墓地礼拝が大東市の大阪霊園で執り行われました。

今回埋葬された逝去者は芦屋聖マルコ教会の3人の方でした。司式は磯主教、補式はウイルソン司祭、義平司祭で、参列者は約20人でした。

薄曇りの天候で汗ばむほどの気温でしたが、皆さんで静かに故人を偲び、祈ることが出来ました。

広報委員会からのお知らせ

来年から大阪教区報は、経費削減、紙面充実のために以前のように隔月連載となります。またそれに伴い、一部当たりの枚数が増え、値上がりとなりますが、総合的には月刊時と同じか、安くなる形となります。来年度も大阪教区を知る、伝える役割を全うしてまいりたいと思いますので、皆様のご協力をお願い致します。

広報委員長

教区合同埋葬式・教区墓地礼拝は毎年11月の第1土曜日14時からと決めて開催しています。また、それ以外の時期でも随時個別に埋葬が可能です。

生駒山の山頂に近い場所にあり、大阪平野が一望できるところでも景色の良いところがあります。霊園自体も出来て間がない新しいところですので、休憩場所やトイレもきれいで、とても落ち着けます。ぜひ一度訪れてみてください。

(墓地管理委員会)

太田 幸彦



感謝の100年〜主と共に喜びをもって歩もう〜 大阪教区婦人会成立100周年記念聖餐式

大阪教区婦人会会長 エリザベツ 鈴木久美子

1923年、大阪教区が設立された同じ年に、「大阪教区婦人補助会結成大会」が開催され、2023年教区も婦人会も100周年をむかえました。

晴天に恵まれた11月3日（金・休）大阪教区主教座聖堂（川口基督教会）にて、感謝の100年〜主と共に喜びをもって歩もう〜をテーマに大阪教区婦人会成立100周年記念聖餐式をささげることができました。

準備委員会を立ち上げた2

021年11月北海道教区主教に、東京教区の笹森田鶴司祭が日本聖公会はもちろん東アジアで初めての女性の主教に選出され、説教者にはぜひ笹森主教を、と按手式後すぐお願いし、お引き受けいただきました。記念聖餐式では力強い説教をいただき私たちを元気づけてくださいました。

笹森主教は日本聖公会婦人会から出版されている「息吹をうけて」を丁寧に読んでくださって、初代林歌子会長から100年受け継がれてきた大阪教区婦人会の働き、ミスブル記念ホームでの長いつながり、愛の園への奉仕、生野センターへの支援、阪神淡路大震災の支援などをあげ、婦人会成立前からの数えきれない多くの女性たちの物語の積み重ねですと話



説教者の笹森主教様

してくださりました。宣教の働きを大切に受け継いできた団体として婦人会を誇らしく思いました。当日の福音書から失われた羊や銀貨を探し出して喜んでくださる神の喜びが、私たちの喜びであり、主と共に歩もうと進んでいる大阪教区婦人会は新しいことへと歩みだしていると話くださいました。この歩みを次の世代に引き継いで欲しいと切に思いました。

司式は磯晴久主教、補式は大西修主教、千松清美司祭、チャップレン内田望司祭、歴代主教夫人、

歴代婦人会会長、教役者の皆様を含め152人の出席者でした。当日の信施金166,841円は、長く感謝箱献金（日本聖公会婦人会・大阪教区婦人会）が関わってきた横浜教区にある「社会福祉法人 聖ヒルダ会ベタニヤ・ホーム大規模改修」のためにお献げしました。

当日の記念品として「感謝

の100年」と刻印したクッキーをお渡ししました。100周年記念誌は笹森主教の説教、当日の写真掲載して2024年1月に発行予定です。

川口基督教会の皆様、大阪教区のすべての皆様のご協力感謝です。ありがとうございます。（恵我之荘聖マタイ教会信徒）

礼拝・音楽委員会主催 教会暦と聖歌Ⅱ「降臨節の学び」報告

小野田 富美子

11月18日（土）川口基督教会にて教会暦と聖歌Ⅱ「降臨節の学び」が開催されました。

ようになって、など。

最初に、昼の祈りをお献げし、その後、柳時京司祭とともに学びの時を持ちました。

「わかつているようで実はそうでもない…」そんな降臨節に関する曖昧な理解を再度確かめる良い機会になりました。後半には、参加者がリクエストした聖歌を全員で歌うという楽しい企画が用意されました。柳司祭が「歌うことは2倍祈ること」という言葉を教えていただきました。言葉と旋律を意識し、声を合わせ、心を一つにして歌うことはまさに祈りそのものだと思います。

降臨節、待降節は西方教会の習慣で、advent はラテン語の「来臨、到来、来る」を意味する adventus に由来する。東方教会にはこれを守る習慣がない。

祈ることを実感できた大変有意義な学びの時でした。めぐみ多き一日に感謝いたします。※参加人数・20人 献金・9,330円は神学生後援会のためにお献げいたします。

・起源・5-6世紀に起こったイエス誕生を迎えるための「悔い改め」の期間が始まりといわれており、その準備期間が、次第に、悔い改めより、降誕を待つ喜びの時とされる

（大阪聖アンデレ教会信徒）

大阪教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

1月10日(水) 10:30~

*説教者: 司祭 山本 眞

- 1日 宣教師 ヘンリー・ラング (1917米)
司祭 デービッド・マーシャル・ラング (1946英)
司祭 ウィリアム・ロイストン・グレイ (1950英)
3日 主教 ウィリアム・オードリー (1910英)
司祭 河合 堯三 (1939)
8日 司祭 テモテ 名出 望 (2015)
12日 司祭 ヨセフ 側垣 基雄 (1965)
司祭 ギデオン 小川 博司 (2002)
13日 伝道師 三木 八十五郎 (1918)
15日 司祭 パーシー・A・スミス (1960米)
伝道師 寺本 房吉 (1960)
19日 司祭 ペテロ 宇野 秀太郎 (1944)
主教 アーサー・リー (1958英)
伝道師 今泉 颯子 (1970)
20日 司祭 ヒカル 柳原 光 (1994)
主教 オーガスチン 高野 晃一 (2015)
21日 司祭 久永 光雄 (1937)
22日 主教 ペテロ 松本 寛一 (1980)
25日 執事 下部 徳太郎 (1933)
26日 司祭 パウロ 井上 進次 (2016)
27日 司祭 サムエル 久保 道則 (2011)
30日 執事 バルナバ 寺沢 久吉 (1945)
不詳 司祭 山下 有任 (1903)

2月14日(水) 10:30~

*説教者: 主教 磯 晴久

- 1日 宣教師 エルザ M.キーン (1949英)
3日 司祭 トマス 佐藤 時雄 (1989)
5日 司祭 バークレー・フォーウエル・バクストン (1946 英)
8日 宣教師 フランシス・エドワード・ハモンド (1932 英)
宣教師 司祭 パメラ A. クーパー (2021英)
10日 司祭 祖山 達三 (1941)
司祭 皆川 晃雄 (1952)
宣教師 フローレンス・マリアン・ファジル (1956 英)
13日 伝道師 マリヤ 奥田 ヤス子 (1949)
14日 司祭 J. ハミルトン・クインビー (1882米)
16日 司祭 ステパノ 久保 登知雄 (1981)
17日 司祭 ジョージ・ヘンリー・ポール (1929英)
19日 伝道師 小橋 かつえ (1964)
20日 司祭 ヨセフ 松岡 安立 (1972)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分
から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかか
わらず、どうぞ自由にご参加ください。

【常置委員会報告】 11/16 第18回(定例)

I. 主教報告及び諸報告

11月10日(金)~13日(月)、日本聖公会宣教協議会が山梨県清里で開催され、10年の実りを持ち寄り、これからの課題を共有した。一部プログラムはオンライン配信された。
10月31日(火)、中日本宣教協働区の協働委員会(ズーム会議)が開催された。その後の宣教協議会では、中日本に属する約50人が対面で意見交換を行う機会が与えられた。

II. 協議事項と主教諮問

* 協会支援委員会に、小林聡司祭が協力委員として参加することを了承した。
* 管財委員会委員長が、3月より寒河江研司さんに変更となっていることを確認した。
* 教区の今後について協議した。
* 次期常置委員会への引継ぎ事項を協議した。
* 人事に関する主教諮問を了承した。
【局長会議報告】 10/6 第6回

* 10月16日(月) 生野フィードワークで歴史資料館を見学。

* 11月26日(日) 教会遠足を城南キリスト教会で実施。

* 来年度の教区予算案をほぼ確定した。
* 財務委員会での協議内容を局長会議に移行すること、財務委員会のあり方を検討する。

【財政局】

* 教役者給与規定および職員給与規定改定について検討する。そのため、他教区の情報調査する。
* 来年度の教区予算案をほぼ確定した。

【総務局】

* ガザ支援のための方策を検討する。

聖婚

堺聖テモテ教会 (11月4日)
インマヌエル 柴崎 久弥
木村 春菜

逝去者

川口基督教会
(8月14日) 東野 道子 (93歳)
イサク 稲田 一郎 (75歳)
(10月6日) エリザベツ 川島 徳子 (89歳)

主教巡回予定

- (1月) 高槻聖マリヤ教会
大阪聖三一教会
大阪聖アンデレ教会 (堅信式)
堺聖テモテ教会
4日 富田林聖アゲネス教会
堅信受領者総会 (予定)
11日 大阪聖三一教会 (堅信受領者総会)
18日 聖ルカ教会 (堅信受領者総会)
25日 聖贖主教会

お詫びと訂正

○515号 6ページ
逝去者 芦屋聖マルコ教会
(誤) 松井 裕
(正) 松井 裕

お詫びして訂正いたします。

東豊中聖ミカエル教会 (10月30日・88歳)
ルツ 岩津 素子 (11月13日・79歳)
聖贖主教会
ケネス 小牟田 健三郎 (11月15日・86歳)

魂の平安をお祈りします

ユプロ 萩岡 謙 (10月30日・88歳)